

全体版の概要 埼玉県四半期経営動向調査(平成18年4～6月期)

I 調査結果の総括

県内中小企業の経営動向は、緩やかな回復の動きがやや弱まった。

(景況感が6期ぶりに悪化した。景況感DI：前期 ▲41.0 → 当期 ▲41.8)
今後については、緩やかな回復の動きが弱まる見通しである。

(1) アンケート調査結果から

○経営者の景況感

【県内中小企業の景況感DI】

▲41.8で、前期比0.8ポイント低下。6期ぶりに悪化。

<業種別にみた景況感DI>

【製造業】

▲31.4で、前期比2.1ポイント低下。4期ぶりに悪化。

「輸送用機械器具」及び「一般機械器具」は改善。

「プラスチック製品」は18.0ポイントと大幅に悪化。

【非製造業】

▲50.9で、前期比1.9ポイント低下。6期ぶりに悪化。

「情報サービス業」、「建設業」及び「サービス業」は改善。

「卸売・小売業」及び「飲食店」は悪化。

※製造業（12業種）：食料品、衣服・その他の繊維製品、家具・装備品、
パルプ・紙・紙加工品、印刷・出版、プラスチック製品、
鉄鋼業・非鉄金属、金属製品、一般機械器具、電気機械器具、
輸送用機械器具、精密機械器具

※非製造業（7業種）：建設業、卸売・小売業、飲食店、情報サービス業、
運輸・倉庫、不動産業、サービス業

○売上げ・資金繰り・採算／2期ぶりに改善。来期も引き続き改善する見通し。

○設備投資／実施率は2期ぶりに低下。来期も引き続き低下する見通し。

(2) ヒアリング調査結果から

○景況感

【製造業】 金属製品及び一般機械では上向いており、輸送用機械器具及び電気機械器具ではおおむね横ばいで推移している。

【小売業】 天候不順などにより、弱い動きがみられる。

【情報サービス業】 上向く動きがみられる。

Ⅱ 調査要領

本調査は四半期毎に実施している。

(1) 調査対象

県内中小企業

(2) 調査方法

① アンケート調査・・・景況感など、特別調査事項

- ・ 製造業 : 960企業中、回答数 561企業 (回答率58.4%)
- ・ 非製造業※ : 1,240企業中、回答数 646企業 (回答率52.1%)
- 計 : 2,200企業中、回答数1,207企業 (回答率54.9%)

※ 非製造業は建設業、卸売・小売業、飲食店、情報サービス業、運輸・倉庫、不動産業、サービス業

② ヒアリング調査

- ・ 製造業 : 23企業・組合
- ・ 小売業 : 9企業・商店街
- ・ 情報サービス業 : 3企業
- 計 : 35企業等

(3) 調査対象期間

平成18年4～6月(調査時期:平成18年6月)

(4) 実施機関

埼玉県産業労働部産業労働政策課及び埼玉県産業労働センター

Ⅲ 調査結果概要

1 アンケート調査結果の概況

※ DI(景気動向指数: Diffusion Index)とは、例えば「好況」と回答した企業割合から「不況」と回答した企業割合を差し引いた指数で、企業の景況判断等の強弱感の判断に使用する指数のことである。

〈例〉「好況」7.0% 「普通」44.0% 「不況」49.0%

$$DI = 7.0\% - 49.0\% = \blacktriangle 42.0$$

(1) 経営者の景況感と今後の景気見通し

「景況感は6期ぶりに悪化した。今後の見通しについては、後退懸念がやや高まった。」
業種別にみると、製造業は4期ぶりに、非製造業は6期ぶりに悪化した。

〈景況感DI: 前期 → 当期(前年同期)〉

- ・ 全体 : $\blacktriangle 41.0 \rightarrow \blacktriangle 41.8$ ($\blacktriangle 51.4$)
- ・ 製造業 : $\blacktriangle 29.3 \rightarrow \blacktriangle 31.4$ ($\blacktriangle 44.5$)
- ・ 非製造業 : $\blacktriangle 49.0 \rightarrow \blacktriangle 50.9$ ($\blacktriangle 56.0$)

〈「良い方向に向かう」と回答した企業割合：前期→当期〉

- ・全 体： 14.4% → 9.5%
- ・製 造 業： 14.6% → 8.6%
- ・非製造業： 14.2% → 10.2%

〈「悪い方向に向かう」と回答した企業割合：前期→当期〉

- ・全 体： 18.1% → 21.9%
- ・製 造 業： 14.0% → 20.7%
- ・非製造業： 20.9% → 22.9%

(2) 売上げについて

「2期ぶりに改善し、来期も引き続き改善する見通しである。」

当期の売上げDIは、製造業は2期ぶりに改善したが、非製造業は2期連続で悪化した。
来期については、製造業、非製造業ともに当期の売上げDIを上回る見通しである。

〈売上げDI：前 期 → 当 期（前年同期）→ 来 期〉

- ・全 体：▲15.6 → ▲11.9（▲18.5）→ ▲ 4.1
- ・製 造 業：▲16.4 → ▲ 7.6（▲12.3）→ ▲ 1.8
- ・非製造業：▲15.1 → ▲15.6（▲22.6）→ ▲ 6.1

(3) 資金繰りについて

「2期ぶりに改善し、来期も引き続き改善する見通しである。」

当期の資金繰りDIは、製造業、非製造業ともに2期ぶりに改善した。
来期については、製造業は当期の資金繰りDIを上回り、非製造業は下回る見通しである。

〈資金繰りDI：前 期 → 当 期（前年同期）→ 来 期〉

- ・全 体：▲17.9 → ▲14.9（▲12.1）→ ▲14.0
- ・製 造 業：▲17.1 → ▲16.2（▲ 8.4）→ ▲10.4
- ・非製造業：▲18.4 → ▲13.8（▲14.6）→ ▲17.1

(4) 採算について

「2期ぶりに改善し、来期も引き続き改善する見通しである。」

当期の採算DIは、製造業、非製造業ともに2期ぶりに改善した。
来期については、製造業、非製造業ともに当期の採算DIを上回る見通しである。

〈採算DI：前 期 → 当 期（前年同期）→ 来 期〉

- ・全 体：▲28.6 → ▲26.9（▲27.9）→ ▲21.2
- ・製 造 業：▲28.5 → ▲26.1（▲22.2）→ ▲19.6
- ・非製造業：▲28.7 → ▲27.6（▲31.7）→ ▲22.5

(5) 設備投資の動向について

「実施率は、2期ぶりに低下し、来期も引き続き低下する見通しである。」

実施率は、製造業は2期連続で、非製造業は2期ぶりに前期の実施率を下回った。

来期については、製造業、非製造業ともに低下する見通しである。

〈設備投資実施率：前 期 → 当 期（前年同期）→ 来 期〉

- ・全 体 : 28.1% → 26.0% (28.6%) → 22.9%
- ・製 造 業 : 33.5% → 31.3% (36.8%) → 28.5%
- ・非製造業 : 24.3% → 21.5% (23.1%) → 18.1%

2 ヒアリング調査結果の概況

(1) 製造業

【景 況 感】金属製品及び一般機械では上向いており、輸送用機械器具及び電気機械器具ではおおむね横ばいで推移している。

【売 上 げ】前年同期を上回っている業種が多い。

【受注単価】一部上がった業種もみられたが、多くは下がっている。

【採 算 性】業種により分かれたが、受注単価の低下と原材料価格の上昇が影響し悪化したとすることが多かった。

【原材料価格】ほとんど変わらない業種もあるが、上昇したとする業種が多かった。

【個別品目の受注動向】自動車関連、射出成形機及び医療機器関連などが好調である。

【設備投資】一般機械、輸送用機械器具、プラスチック製品及び鋳鉄物を中心に、生産設備の導入や更新などを実施した企業がみられた。

(2) 小売業

【景況感】天候不順などにより、弱い動きがみられる。

- ・百貨店は、弱い動きがみられる。
- ・スーパーは、明るい兆しはあるものの、一部で弱い動きがみられる。
- ・商店街は、厳しい状況が続いている。

(3) 情報サービス業（ソフトウェア業）

【景況感】上向く動きがみられる。

[このページに関するお問い合わせ先]

産業労働部産業労働政策課 調査分析担当 Tel:048-830-3723 Fax:048-830-4818 E-mail:a3710@pref.saitama.lg.jp